

令和6年度病害虫発生予報第3号（7月予報）概要表

令和6年6月26日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）紋枯病		やや多
（3）縞葉枯病		やや多
（4）ヒメトビウンカ		多
（5）セジロウンカ		並
（6）ツマグロヨコバイ		多
（7）斑点米カメムシ類		多
（8）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第3世代幼虫）	やや早	並
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		やや少
（2）縞葉枯病		やや多
（3）ヒメトビウンカ		多
（4）セジロウンカ		並
（5）ツマグロヨコバイ		並
（6）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第3世代幼虫）	やや早	並
（7）イチモンジセセリ（イネツトムシ）（第2世代幼虫）	並	並
<u>3 大豆の播種前防除対策</u>		
（1）紫斑病		
<u>4 なし</u>		
（1）黒星病		並
（2）ハダニ類		並
（3）アブラムシ類		並
（4）果樹カメムシ類		多
（5）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>5 なす (夏秋栽培)</u>		
(1) 褐色腐敗病		並
(2) オオタバコガ		多
(3) ハダニ類		並
(4) アザミウマ類		多
<u>6 ねぎ (冬春栽培)</u>		
(1) 黒斑病		多
(2) 軟腐病		並
(3) シロイチモジヨトウ		多
(4) ネギアザミウマ		やや多
<u>7 いちご (苗)</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) ハダニ類		やや多
<u>8 茶</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) チャハマキ (第2世代幼虫)	やや遅	並
(3) チャノコカクモンハマキ (第2世代幼虫)	早	並
(4) チャノホソガ (第2世代幼虫)		並
(5) チャノミドリヒメヨコバイ		多
(6) カンザワハダニ		並
(7) チャノキイロアザミウマ		多
(8) クワシロカイガラムシ	早	

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

(令和6年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和6年度病虫害発生予報第3号（7月予報）

令和6年6月26日
埼玉県病虫害防除所

1 水稲（5月中旬までの移植）(1/2)

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○6月中旬の発生量：多 □5月1日～6月24日までの感染好適条件の出現日数10日（平年：28.8日）：やや少（-） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（-）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂で軟弱な稲体となり、発生を助長するため、適正な追肥を実施する。 ・防除所発表の「いもち病（葉いもち）感染好適条件出現日数」（ 参照3 ）を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
紋枯病	やや多	○6月中旬の発生量：無 □前年の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂となり発生を助長するため、適正な追肥を実施する。
縞葉枯病	やや多	○6月中旬の発生量：多 □県予察ほ場での発生量：やや多（+） □ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の縞葉枯病ウイルス保毒虫率（ 参照4 ）：少（-） □7月のヒメトビウンカの予想発生量：多（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考にヒメトビウンカの防除対策を実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取り処分する。
ヒメトビウンカ	多	○6月中旬の発生量：多 □県予察ほ場での発生量：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
セジロウンカ	並	○6月中旬の発生量：無 □5月1日～6月24日までの飛来予測日数2日（平年2.9日）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・防除所発表の「ウンカ飛来予測」（ 参照5 ）を確認し、飛来予測日が多い場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

1 水稲（5月中旬までの移植）(2/2)

病害虫名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
ツマグロ ヨコバイ	発生量 多	○6月中旬の発生量：多 □県予察ほ場での発生量：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」など）では多発しやすいので早期発見に努める。
斑点米 カメムシ類	発生量 多	○6月中旬の発生量：並 □県予察ほ場での発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・水田内外の雑草で増殖するため、通年で雑草管理を実施する。 ・出穂期前後2週間の除草作業は、本田への侵入を助長するため実施しない。 ・イネカメムシは雑草管理による防除効果が期待できないため、昨年多発した地域では出穂期～穂揃期（不稔対策）及び穂揃期の7～10日後（斑点米対策）に薬剤による防除を実施する。
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第3世代幼虫)	発生時期 やや早 発生量 並	○6月中旬の発生量：無 ■6月25日現在の有効積算温度による第2世代成虫の予測発蛾最盛日7月7日（平年7月10日）：やや早（+） □フェロモントラップによる誘殺数：やや少（-） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が7月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）発育予測」を参考にし、第3世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に第2世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
【共通注意事項】			
・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照3：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html

参照4：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果（令和5年2月3日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20240115.html

参照5：気象予測データによるウンカ飛来予測状況（トビイロウンカ、セジロウンカ）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_unkahirai.html

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）（1/2）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	やや少	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月24日までの感染好適条件の出現日数10日（平年：28.8日）：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（－）	・ほ場内の余り苗は感染源となるため、早めに撤去する。 ・防除所発表の「いもち病（葉いもち）感染好適条件出現日数」（ 参照3 ）を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
縞葉枯病	やや多	○6月中旬の発生量：－ □5月中旬移植の県予察ほ場での発生量：やや多（＋） □5月中旬までの移植地域での発生量：多（＋） □本作型の地域では抵抗性品種の作付割合が高い（－） □7月のヒメトビウンカの予想発生量：多（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考にヒメトビウンカの防除対策を実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取り処分する。
ヒメトビウンカ	多	○6月中旬の発生量：－ □5月中旬移植の県予察ほ場での発生量：多（＋） □5月中旬までの移植地域での発生量：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
セジロウンカ	並	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月24日までの飛来予測日数2日（平年2.9日）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所発表の「ウンカ飛来予測」（ 参照5 ）を確認し、飛来予測日が多い場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
ツマグロヨコバイ	並	○6月中旬の発生量：－ □本作型の地域では抵抗性品種の作付割合が高い（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」など）では多発しやすいため、早期発見に努める。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）(2/2)

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第3世代幼虫)	発生時期 やや早 発生量 並	○6月中旬の発生量：－ ■6月25日現在の有効積算温度による第2世代成虫の予測発蛾最盛日7月7日(平年7月10日)：やや早(+) □フェロモントラップによる誘殺数：やや少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が7月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ(イネアオムシ)発育予測」を参考にして、第3世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に第2世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
イチモンジ セセリ (イネツトムシ) (第2世代幼虫)	発生時期 並 発生量 並	○6月中旬の発生量：－ ■6月25日現在の有効積算温度による第2世代幼虫の予測孵化最盛日7月22日(平年7月24日)：並(±) □5月中旬移植の県予察ほ場での第1世代幼虫の発生量：無(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が7月初旬に発表予定の「イネツトムシ発育予測」を参考にして、第2世代幼虫の防除を実施する。
【共通注意事項】			
・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する(縞葉枯病はヒメトビウンカ対象)。			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照3：いもち病(葉いもち)感染好適条件出現状況

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam.html

参照5：気象予測データによるウンカ飛来予測状況(トビイロウンカ、セジロウンカ)

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_unkahirai.html

3 大豆の播種前防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
紫斑病	・本病害に対する抵抗性品種(「里のほほえみ」等)を栽培する。 ・健全な種子を選ぶとともに、薬剤で種子を消毒する。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

4 なし

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌の発現を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 ・「幸水」は感受性が高まる時期であるため、発生に注意する。
ハダニ類	並	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・高温期は増殖が早いいため、こまめに発生状況を確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	並	○6月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	
果樹 カメムシ類	多	○6月中旬の発生量：散見 □予察灯による誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・5月10日に発表した「注意報第2号」(参照6)を参考に適期防除を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ) (第2世代幼虫)	多	○6月中旬の発生量：多*** □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・4月15日に発表した「注意報第1号」(参照7)を参考に防除対策を実施する。 ・交信攪乱剤（コンフューザーN等）を速やかに設置する。ナシ園の周囲を含め広範囲で使用することが効果的である。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、第1世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照6：令和6年度病虫害発生予察注意報第2号「果樹全般、果樹カメムシ類」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-2.html>

参照7：令和6年度病虫害発生予察注意報第1号「核果類(うめ、すもも等)、なし、ナシヒメシンクイ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-1.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

5 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
褐色腐敗病	並	○6月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（±）	・発病果実の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。
オオタバコガ	多	○6月中旬の発生量：やや多 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・5月13日に発表した「注意報第3号」（ 参照8 ）を参考に適期防除を実施する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	並	○6月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	・高温期は増殖が早いいため、こまめに発生状況を確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
アザミウマ類	多	○6月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照8：令和6年度病害虫発生予察注意報第3号「野菜類・花き類、オオタバコガ」
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-3.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	
軟腐病	並	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・多肥栽培では発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジ ヨトウ	多	○6月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照2）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギ アザミウマ	やや多	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照1）を参考に防除対策を実施する。 ・これから定植を行うものは、定植時の粒剤等により、初期防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（苗）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・胞子が飛散しないよう、チューブかん水など水滴の跳ね返りがない方法でかん水する。 ・被害株は見つけ次第、速やかに除去し、適切に処分する。
ハダニ類	やや多	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・高温期は増殖が早いいため、こまめに発生状況を確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

8 茶

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	発生量 並	○6月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・「さやまかおり」「やぶきた」「こまかげ」「ふくみどり」は発生しやすい品種であるため、一番茶残葉の発病に特に注意する。
チャハマキ (第2世代幼虫)	発生時期 やや遅 発生量 並	○6月中旬の発生量：やや少 ■予察灯の第1世代成虫初飛来日は6月12日(平年6月9日)：やや遅（－） □県予察ほ場での幼虫数：やや少（－） □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。 ・摘採により防除適期を逃した園では、特に注意し発生状況に応じて防除を実施する。
チャノ コカクモン ハマキ (第2世代幼虫)	発生時期 早 発生量 並	○6月中旬の発生量：並 ■予察灯の第1世代成虫初飛来日は6月10日(平年6月17日)：早（＋） □県予察ほ場での幼虫数：並（±） □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：平年並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。 ・摘採により防除適期を逃した園では、特に注意し発生状況に応じて防除を実施する。
チャノホソガ (第2世代幼虫)	発生量 やや少	○6月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：少（－） □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量 多	○6月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で増殖するので除草を励行する。
カンザワ ハダニ	発生量 並	○6月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：少（-） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
チャノキイロ アザミウマ	発生量 多	○6月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	
クワシロ カイガラムシ (第2世代幼虫)	発生時期 早	■6月24日現在、有効積算温度(アメダスデータ青梅)による第2世代幼虫孵化最盛日の予測は7月10日(平年7月22日)：早（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除適期は、孵化幼虫期を中心とした短期間なので、関係機関から発表される最新の防除時期予測に留意する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム](#)（農林水産省）から検索できます。
[農薬登録情報提供システム](#)（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —
(令和6年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

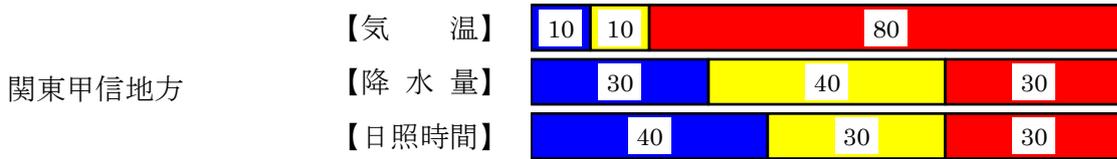
(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和6年6月21日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

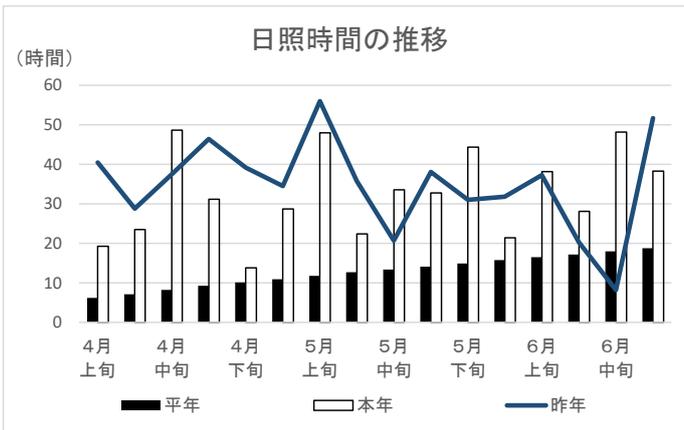
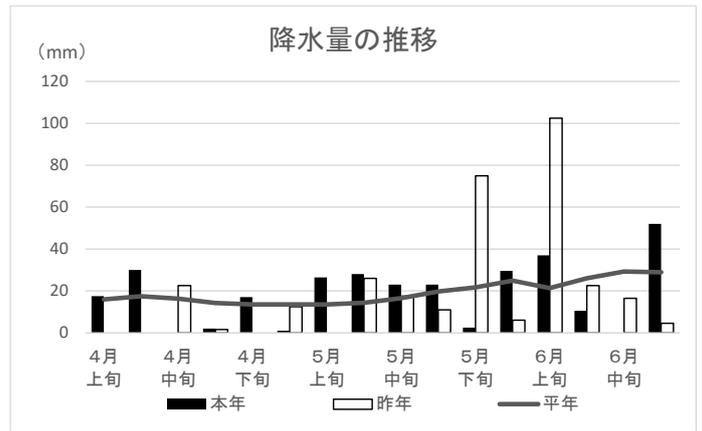
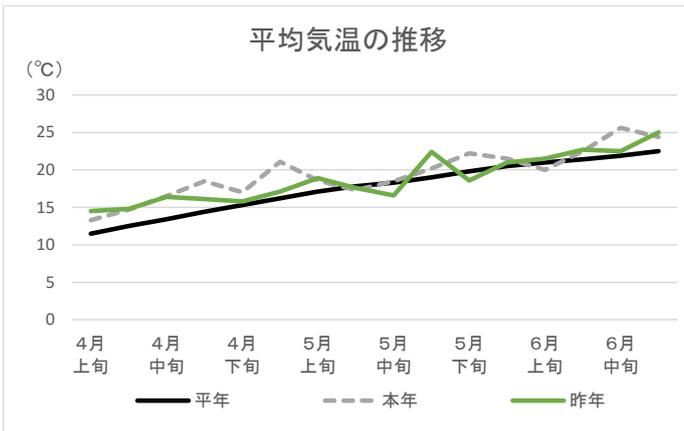
・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
 http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/